

令和4年度 佐世保市学力調査及び長崎県学力調査【小学校】

<佐世保市の結果・改善策等について>

I 佐世保市学力調査

1 調査対象・人数

(国語・算数) 小学校及び義務教育学校前期課程 第4学年・・・2,077名

2 教科別領域別結果

教科	国語							算数				
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	全体	数と計算	図形	測定	データの活用	全体
市平均正答率	74.3	44.8	83.6	64.6	60.5	59.4	67.5	70.2	63.7	78.0	88.0	71.5
全国平均正答率	75.4	47.5	84.6	64.4	57.0	61.9	68.0	72.6	63.4	78.8	88.2	73.1
全国比達成率%	98.5	94.3	98.8	100.3	106.1	96.0	99.3	96.7	100.5	99.0	99.8	97.8

3 課題と分析及び改善策 (○:成果 ◎:改善傾向 ▲:課題 ■:継続課題)

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率		改善策(例)
		市	国	
国語	○ 話し手が伝えたいことの中心を捉えている。 ○ 第3学年に配当された漢字を正しく読んでいる。 ○ 自分の考えを明確にして文章を書いている。			
	◎ 第3学年で学習した漢字を正しく書いている。 【2(2)①~③】 ※数値は3項目の平均	64.8	65.0	・漢字の用例や意味について確実に理解させる。反復練習では、「新しい漢字を覚える」「身に付いているか確認する」など、目的をもって取り組ませる。また、学習した漢字は必ず使わせることで、学年配当漢字を確実に身に付けさせる。
	■ 主語と述語の関係について理解している。 【3(1)】	70.0	74.7	・主語と述語の関係が係り受けの関係にあること、述語は文の結論を表す役割を担っており、主語はその主体になることを確実に理解させる。そのうえで、低学年から主語と述語の関係について指導を積み上げていく。
	■ 場面の様子について、叙述をもとに捉えている。 【4(2)】	17.9	23.6	・「問われていることは何か」を確実に捉えさせようとして、目的をもって文章を読むことの習慣化を図る。そのうえで、キーワードとなる言葉や本文の叙述に線を引いたり考えを書いたりさせる。また、教師と子ども・子ども同士の対話的な場面等においても、自分の答えを発表して終わるのではなく、本文の叙述を根拠として考えを説明させる場面を意図的に設定する。
	■ 叙述を基に段落の内容を捉えている。 【5(1)】	64.7	65.8	
	▲ 情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。 【6(1)】	33.0	36.7	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの学習においても、考えとそれを支える理由や事例の関係性について理解させる。考えがどのような理由や事例によって支えられているのかを吟味する場面を設定する。
算数	○ 二等辺三角形の作図ができる。 ◎ 2けた×2けた=4けたの計算ができる。 ○ はかりの目盛りの読み取り方を理解している。			
	■ 文章問題を解くために除法の立式をしている。 【5(1)】	68.5	72.6	・関係図やテープ図を用いて、「何の何倍が何になる」かを考えさせることで2つの数の関係をかけ算で表し、それをもとに除法の立式へとつなげることができるようにする。
	■ 小数の減法計算ができる。 【4(6)】	21.8	35.9	・小数の計算は、数直線上での小数・整数の大小や順序、0.1の何個分の考え方で整数と同じ見方をするなどの小数の仕組みと関連付けながら、整数と同じ原理、手順であることを理解させる。
	■ □を使って乗法の式に表すことができる。【8(2)】	59.5	63.4	・問題場面の数量関係を、図等で整理する活動を低学年から取り入れ、全体と部分や、基準量・比較量・割合(倍)を視覚的に捉えることができるようにする。 ・問題→図→式だけでなく、図→式・問題、式→図・問題と双方向での理解を図る。
	▲ 地図から道のりを読み取って、その和を求めることができる。	70.3	80.5	・「道のり」と「距離」の違いを理解を深めるとともに、m→km、km→mと双方向での理解を図る。 ・長さの加減計算を行う際は、道のりや距離の情報が混在した課題の中から、自分で問題を作成したり、自分の町の地図で実際の道のりを求めるなどの活動を取り入れる。
	▲ 円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明している。	14	13.7	・円の性質を理解するとともに、普段から既習内容を用いて、根拠をもとに考えを構築し、その内容を書いたり説明したりする活動を取り入れる。

## II 長崎県学力調査

### 1 調査対象・人数

(国語・算数) 小学校及び義務教育学校前期課程 第5学年・・・2, 131名

### 2 教科別領域別結果

教科	国語					算数					
	知識及び技能	話す聞く	書く	読む	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	全体
市平均正答率	72.6	70.0	54.3	48.5	65.7	55.7	58.0	69.2	65.7	68.1	61.4
県平均正答率	72.0	70.5	50.4	47.4	64.6	57.5	58.7	69.1	62.7	63.9	60.9
県比達成率%	100.8	99.3	107.7	102.3	101.7	96.9	98.8	100.1	104.8	106.6	100.8

### 3 課題と改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率		改善策(例)
		市	県	
			自校	
国語	○ ローマ字で正しく書く。 ○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書く、読む。 ○ 考えを支える事例を書く。 ○ 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。			
	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話す。【1一】	69.7	70.7	・ 話の構成を考える際に、相手に考えが伝わるような理由や事例などを挙げているか吟味できる対話場面を設定する。また、「書くこと」「読むこと」などの学習においても、考えとそれを支える理由や事例の関係について理解させる。
	相手や目的を意識して、丁寧な言葉を使う。【1二】	72.3	72.5	・ 目的意識・相手意識を明確にした言語活動を設定する。相手や目的に応じて敬体と常体を使い分けるといった視点を持たせたうえで、文章を推敲したり、対話をさせたりする場面を設定する。
	◎ 司会の役割について捉える。【1三】	69.9	71.2	・ 話し合いの目的やゴール、話し合いの進め方などを確認し、話し合う目的や必要性を意識して話し合いを進めさせる。全体での話し合いだけでなく、グループ活動等においても司会を指名し、話し合う目的を明確にした対話活動を設定する。
	◎ 書く内容を明確にし、文章の構成を考える。【2二】	51.2	51.3	・ 「書くこと」において、目的意識や相手意識のある言語活動を設定する。書く内容の中心を明確にしたうえで、「冒頭部－展開部－終結部」など文章の展開や種類に応じて、それぞれの部分に何を書くのかを意識して、文章の構成を考えさせる。
算数	○ 棒グラフで表された2つのデータを比較し、示された特徴をもった項目と、その人数を記述できる。 ○ アンケートで得られた結果を、二次元の表に分類整理することができる。 ◎ 数を構成する単位に着目して小数÷整数計算の仕方を記述することができる。			
	■ 色のついた部分のテープの長さを分数で書く【1(1)②】	36.3	44.6	・ 分数の学習の際には、常に何を「1」と捉えているのかを意識させる。 ・ 全体を「1」と捉えて部分を表す「分割分数」と、実際測定したときの大きさを表す「量分数」の違いを具体物を持って理解させる。
	▲ 10分の1Lは小数で表すと何Lであるのかを書く。【1(2)】	70.1	74.2	・ 10分の1と0.1の、それぞれの大きさを数直線を使い、視覚的にとらえる活動を取り入れる。 ・ 分数と小数の大きさを比較する場合は、数直線を使って考えたり、分数が小数に合わせるなど根拠をもとに大小を説明させる活動を行う。
	▲ もとにする大きさを表す「1」は、図の中のどこに入るかを選ぶ。【3(3)①】	18.6	22.9	・ 問題場面の数量関係を、図等で整理する活動を低学年から取り入れ、全体と部分や、基準量・比較量・割合(倍)を視覚的に捉えることができるようにする。 ・ 関係図やテープと数直線の図を有効に用いることで、もとにする量を1としたときの2つの数量の相対的な大きさのイメージを持たせる活動を行う。

### Ⅲ 考察

#### 【国語】

- 「書くこと」においては、県学力・市学力ともに県平均・全国平均を大きく上回った。多くの学校で「書く力」を課題として捉え、その改善に向け、授業の中で計画的に書く活動を意識的に位置つけた成果であり、「書くこと」に対する子どもの抵抗感も低くなっていると考えられる。今後も引き続き学習活動の中で「書く活動」を位置づけていく。単元計画においても、書くことと読むことの複合単元において、「書くために読む」という目的意識を授業者が強く持つとともに、子どもとの目的の共有化を図る。市学力では「書くこと」の無答率が20.7%あるため、スモールステップで書くことができるような授業展開やワークシートの工夫、書いた後に子どもが自己評価をし改善につながるようなチェックリストの作成等、子どもの実態に応じた手立てを講じていく。
- 「読むこと」においては、県比達成率に対する伸びが県学力では+7.6であったのに対し、市学力では+0.4にとどまり、県に届いていない。説明文や物語文の学習では、「読むこと」における付けたい力を授業者自身が明確にもち、その具現化のため子どもの実態に応じた魅力的な言語活動を設定する。そのうえで、単元を通して計画的につけたい力の定着に向かう単元を構想する。単元の導入時において子ども自身が「読む目的」を意識できるような「単元のめあて」を設定するとともに、授業の初めにそれを確認する場面を設定する。対話活動においては、問われていることを意識させたうえで、本文の叙述を根拠に考えを述べさせることの習慣化を図っていく。

#### 【算数】

- 市学力調査においては、全国比達成率において、平均を下回っているものの、令和3年度の92.6%から97.8%に、大きく上昇した。県学力調査においても、全国比達成率で95.7%から100.8%と県の平均を上回る結果となった。一方で問題場面を表した図の構成をもとにした立式、分数の表し方などの項目では依然として課題が残っている。課題改善に向け、次の2点を意識したい。
  - ① 小数や分数の表し方において、0.1や10分の1などの単位小数、単位分数をもとにした考え方を働かせ、計算を行うようにする。また、全体を「1」と捉えて部分を表す「分割分数」と、実際測定したときの大きさを表す「量分数」の違いを具体物や図等を活用して理解させる。
  - ② 問題場面の数量関係を、図等で整理する活動を低学年から取入れ、全体と部分や、基準量・比較量・割合（倍）を視覚的に捉えることができるようにする。
- 記述の問題や複数の情報から適切に読み取り筋道を立てて考える問題において、正答率が低く、無答率が高い。学習において、身に付けるべき力を意識し、その力が身に付いた結果の子どもの姿を教師が意識し、その姿をゴールに「まとめ」→「活動」→「めあて」という帰納的な授業づくりを行うこともひとつの手立てである。また、数や図形の概念理解を図る中で、図や言葉を用いて、身に付けるべき力を意識して書く活動を計画的に取り入れるように単元計画を工夫する。また、最後の問題で無答率が高くなる傾向があり、問題を時間内に解くことができていない児童が多いことが予想される。自力解決やプリント学習等において、時間を設定して取り組ませるようにする。